



信州 STOP AIDS 作戦 エイズについて考えてみよう

中学生のためのエイズ読本



長野県

「エイズは自分と関係ない」と考えていませんか。

● 毎年多くの方が、新たに HIV 感染者・エイズ患者として報告されています。

日本で、令和4年の1年間に届出のあった HIV 感染者・エイズ患者の合計は 884 人で、6年連続で減少していますが、いまだに多くの方が報告されています。長野県内では、平成元年以降、令和4年までに 563 人の届出があり、過去5年平均で毎年約8人程度のペースで増えていることとなります。

また、届出数の累計を人口 10 万人当たりでみると、長野県は全国で6番目に多くなっています。

● HIV 感染者・エイズ患者報告数の累計

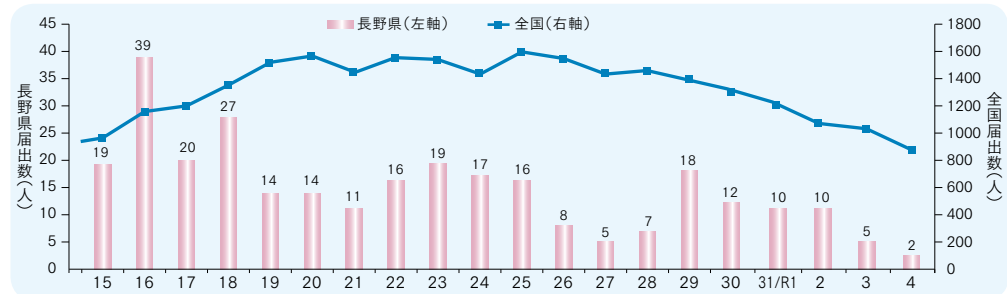
	全 国 (令和4年末現在)	長野県 (令和4年末現在)
HIV 感染者	23,863 人 [うち 632 人]	343 人 [うち 1 人]
エイズ患者	10,558 人 [うち 252 人]	220 人 [うち 1 人]
合 計	34,421 人 [うち 884 人]	563 人 [うち 2 人]

●人口 10 万人当たりの HIV 感染者及びエイズ患者届出数の累計 (令和4年末現在)

順 位	都道府県	人 数
1	東京都	81.81
2	大阪府	45.56
3	茨城県	33.38
4	沖縄県	32.36
5	愛知県	29.51
6	長野県	27.87



● HIV 感染者・エイズ患者届出数の推移



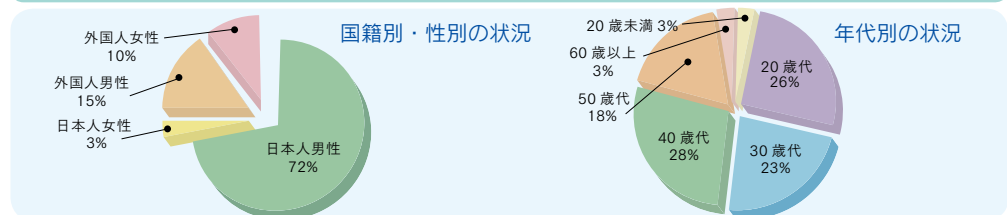
● 誰にでもうつる可能性のある病気です。

最大の感染原因は、感染されている人との「性的接触」によるものです。

県内の最近5年間では、日本人男性が7割を超え、20代から中高年まで幅広い年代の方が報告されています。

また、エイズが発症してからの報告は、全国では約3割なのに対し、県内では3割を超えており、本人の治療が遅れるばかりではなく、感染の拡大も心配されます。

●県内の最近5年間の HIV 感染者・エイズ患者 (平成 30 ~令和4年、全数 39 人)



「エイズ」って何？ どうなるの？

● エイズの原因は「HIV」というウイルスです。

エイズは HIV に感染することで起こる病気です。
HIV に感染すると、病原体から体を守る「免疫」という働きが破壊され、様々な病原体などによって感染症や悪性腫瘍（ガン）を発症します。
エイズは、このように HIV によって免疫力が弱まり、指標となる 23 の病気のいずれかを発症した時点で、エイズの発症と診断されます。

● HIV に感染 = 「エイズ」ではありません。



● エイズ治療は格段に進歩しています。

現在のところ、HIV に一度感染するとウイルスを体の中から完全になくすことは難しいのですが、治療薬の進歩によりウイルスの感染を早く見つけ、適切な治療を続ければエイズの発症や進行を抑えることができます。

エイズも他の病気と同様に、早期発見・早期治療が大切です。自分自身の適切な治療が可能になるほか、自分が感染しているかどうかを知ることによって、他の人にウイルスが感染しないようにすることも非常に大切なことです。

どうしたら、うつるの？

●「性感染症」って、知っていますか。

性感染症は、その病原のもととなる細菌やウイルス、寄生虫などが、主に性的接触の時に人から人へ感染する病気です。

代表的な感染症には、梅毒、淋病、クラミジア感染症などがあり、HIV(エイズ)も性感染症のひとつです。

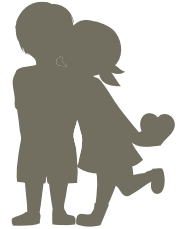
● HIVの主な感染経路は3つあります。

HIVは、感染している人の血液、精液、膣分泌液に多く存在します。主な感染経路は次の3つです。

性的接触による感染

感染している人との性的接触で感染することがあります。

HIV感染者・エイズ患者の約8割の方の原因は性的接触によるものです。



血液による感染

感染している人の血液が体内に取り込まれることで感染します。

注射器・注射針の回し打ちによる薬物乱用などは、特に危険です。

また、ピアスの穴あけ器やカミソリの共用も感染の原因になります。



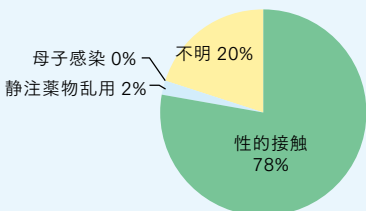
母子感染

母親がHIVに感染していると、妊娠中の母体内や出産時の血液、出産後の母乳で感染する可能性があります。

現在では、適切な措置をすることで母子感染の可能性を低くする方法もあります。



県内の最近5年間の感染原因別届出数
(平成30～令和4年、全数39人)



近年、性感染症の増加が問題になっています。中でも梅毒は増加を続け、女性は20歳代、男性は20歳～40歳代で増えています。

HIVも性感染症のひとつですが、他の性感染症にかかっている人は特にHIVに感染しやすいことが知られています。

性感染症を予防するには、性的接触をしないことが、もつとも有効です。また、病原体との接触を防ぐために、コンドームを使うことも有効な方法であることを将来のために知っておきましょう。

こんなことではうつりません

● 日常生活の中で HIV に感染することは、ほとんどありません。

HIVは感染力が弱く、人の体の中でないと生きていけません。熱や消毒にも弱く、ある程度の量のウイルスが体内に侵入しない限り、感染は成立しないと言われています。また、空気感染やクシャミなどの飛沫感染はないことがわかっています。

HIV はこのようなことではうつりません



● 握手や軽いキス



● 本や文房具を一緒に使う。



● トイレ



● 咳やくしゃみ



● 楽器を共有する。



● 一緒に食事をする。
同じ料理をつつく。



● 理容店や美容院



● お風呂・プール



● 蚊などの虫さされ、
ペット など

<血液には気をつけましょう！>

- ★血液には、HIVに限らず、感染力の強いほかの病原体が含まれている可能性があります。
- ★感染者の血液が直接他の人の粘膜につかないようにします。傷がなければ心配ありませんが、もしついてしまったら、流水でよく洗い流しましょう。
- ★血液のつくおそれのあるもの（歯ブラシ、カミソリ、ピアスなど）は共用しないようにしましょう。

<検査目的の献血は絶対にやめましょう！>

- ★ HIV 検査を目的とした献血は、輸血で感染する危険があるので、絶対にやめましょう。（献血血液の検査は行われていますが、結果は本人に通知されません。）

検査を受けた人の声

最初は、エイズなんて自分には関係ないかなあって考えたりしていた…。

だけどテレビやCM など色々な所でエイズの恐さ、自覚のなさに気付いて「エイズは自分が苦しむだけじゃなく、大切な人までも巻き込むことになる」ってことに気付いて検査を受けました。

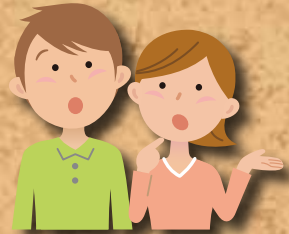
検査を受けて結果が出るまでの時間は不安だった。

でも陰性だとわかった時に「ホッ」とした、けどその場だけでなくこれからの自分の人生に今回感じた物を大事にしていきたい。

そう思いました。

正しい知識がなく性的接触をしていたので急に恐くなって検査を受けました。

“自分を守れるのは自分しかない!!”
当り前のことですが身をもって知りました。心配な人はけっこういるような気がします。ぜひ検査を受けてみれば……。



陰性という結果が出て、ホッとした反面、自分が今までしてきたことに罪悪感もでたし、本当に気を付けようと思った。

結果を知るまで、親や友達にすごい支えてもらってたし、本当に本当に自分はバカだったなあと感じていた。

自分や愛していた人も責めていた。

これからは本当に結婚するまで性的接触をしないと決めました。

これは、長野市保健所で行われている無料 / 匿名の HIV 検査を自主的に受けた方々の感想です。

検査を受けた人の声

友人から検査の話聞いて、今回受けました。

例え1人の人とつき合ってもその人の前の恋人、その恋人の前…etc
いろんな人が関わっているので、やはり検査を受けた方が良いですね。もっともって皆さんに知ってもらい検査を受けて知ってもらおうというのが広がると良いと思う。

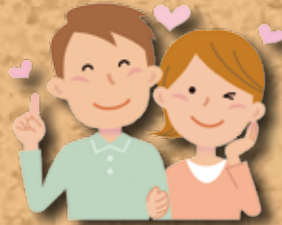
そうすれば HIV に感染する人も減ると思う。

「大丈夫だろう」とは思っていたけど、気にし始めると、どんどん心配になってしまっ…。

勇気を出して検査を受けて、本当に良かったと思っています。

未来を拾った気がします。

正直めっちゃめっちゃ怖かったけど
今 すごく好きな彼女がいるから
今 すごくやりたい事があるから
検査を受けて
本当に良かったと思う。



自分でしてしまったことなのに陽性だったらどうしようと不安でたまらなくなりました。

保健所の方に優しく接して頂いて本当にありがたかったです。

自分の性的接触に対する認識の甘さを痛感しました。

自分だけでなく周りの人達をも悲しませてしまうことを自覚して、これからは危険なことはしません。

本当にごめんささい。ありがとうございました。

誤解や偏見をなくしましょう

● 一人ひとりの正しい知識と理解が大切です。

エイズは特別な病気ではありません。性的接触があれば、誰でも HIVに感染する可能性がある身近な病気です。

HIV感染者やエイズ患者の方は、病気や治療のこと、これからの生活のことなどに、大きな不安や悩みを持っています。こうしたことに理解を示し、接していくことはとても大切なことです。

患者さんの了承がないまま、他人に病気であることを教えたり、病気であることを疑わせるような発言はしてはいけません。患者や感染者のプライバシーを守ることは、HIV／エイズに限らず、他の病気と同様にとっても大切なことです。

HIV／エイズに対する周囲の偏見や誤解は、一人ひとりが正しい知識と理解を身につけ、みんなでなくしていきましょう。

● みんなで話し合きましょう。

HIV／エイズを予防するとともに、偏見や差別をなくし、HIV感染者・エイズ患者さんとともに生きる社会を創るためには、一人ひとりが、HIV／エイズを身近な問題として考えることが大切です。

家庭や学校で、親子どうし、友達や先生と「HIV／エイズのこと」などについて、話し合ってみましょう。



保護者の方へ

今の医学では、HIVに一度感染してしまうと、完全に体内から除去することはできません。また、発病をコントロールできる治療法ができて、長い間治療を続けなければいけません。

社会生活の中に、HIVに感染してしまう危険性があることは、避けることのできない事実です。思春期の頃は、性に興味が出てくる時期のため、どう教えるかは非常に難しい頃と思いますが、この時期に「感染の危険」について正確に教えないといけないと考えています。

このパンフレットをきっかけとして、お子様が「自分を大切にすること」そして「相手を思いやること」について、学校や家庭で話し合みましょう。